# DMX CF RECORDER Ⅳ

**ver.4.X**

取扱説明書

この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

# 安全上のご注意

●ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
●ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | この表示は、取り扱いを誤った場合、**死亡または重傷などを負う可能性**が想定される内容です |
| ⚠ 注意 | この表示は、取り扱いを誤った場合、**傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生**が想定される内容です |

◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

| | |
|---|---|
| ⃠ 禁止 | このような絵表示は、してはいけない**「禁止」**内容です。 |
| ❗ 強制 | このような絵表示は、必ず実行していただく**「強制」**内容です。 |

## ⚠ 警告

**分解、改造をしない**
火災、感電、故障の原因になります。

**金属類を差し込まない**
隙間などから金属類を差し込んだりいないで下さい。火災感電故障の原因になります。

**濡らさない**
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。

**ＡＣコンセントは確実に差し込む**
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。

**コネクターは確実に差し込む**
コネクターの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。

**ＡＣコードを傷つけない**
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。

**異常が起きたときは**
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにＡＣコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。

## ⚠ 注意

**煙や湯気が当たる場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。

**湿気やほこりの多い場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。

**不安定な場所や振動の多い場所に置かない**
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。

**ＡＣコンセントから抜くときはプラグをもって抜く**
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

# 目 次


**1. 本機について ——— 1**

**2. 電源投入 ——— 2**

2-1. 電源投入 ……2
2-2. 液晶表示 ……2

**3. セットアップメニュー ——— 3**

3-1. SET Repeat Num. ……3
3-2. Set Rec. Mode ……3
3-3. Set XF-Time ……4
3-4. Set Stack ……4･5
3-5. Event Program ……5
3-6. CF Initialize ……6
3-7. Make Free Space ……7
3-8. Master Mode ……8
3-9. REC Protect ……9
3-10. LINK ……10
3-11. DMX Remote ……11
3-12. DMX Through ……12
3-13. Exinput Inhibit ……13

**4. データ記憶 ——— 14**

**5. 実行 ——— 14**

5-1. マニュアル実行 ……14
5-2. 自動実行 ……15

**6. 外部からの制御 ——— 15**

6-1. 外部接点入力での呼び出し ……15
6-2. RS232-C での制御 ……15
6-3. DMX での制御 ……15

**7. 付録 ——— 16**

7-1. 仕様 ……16

## 1. 本機について

「**DMX CF RECORDER Ⅳ**」は、あらかじめ外部からのＤＭＸ信号を時間にしたがって取り込み、
本機の再生ボタンや電源投入、接点入力、**RS232-C** 制御により再生する機器です。

ＸＦ－Ｔｉｍｅを設定する事により、再生プログラムをフェードインする事が出来ます。
また、プログラムの切替時にフェードチェンジすることが可能です。

取り込み／再生出来るプログラムの数は最大６４，接点入力は８個備えています。
さらに **RS232-C** では６４個全てのプログラムを呼び出す事が可能です。

スタックモードでは記憶したプログラムから２０ステップまでをスタックとして設定し、順に再生する事が可能です。

取り込み／再生出来る時間は、使用するメモリーカードの容量、取り込みモードにより異なります。
２ＧＢの場合、ＳＰモードでは２７時間４８分。ＬＰモードでは５５時間３４分です。

保存するメモリーカードは、弊社チェック済みのコンパクトフラッシュをお求めください。

本機の高速なデータ取り込みや多機能を実現する為にコンパクトフラッシュのメモリーモードを採用していますので、データを保存したメモリーカード（データ）は市販のパーソナルコンピュータ等では認識出来ません。この為、バックアップ用の同じメモリーカードを作成する事が出来ませんので、データ取込みの際にＤＭＸ送出機器でのデータ保存をお勧めします。

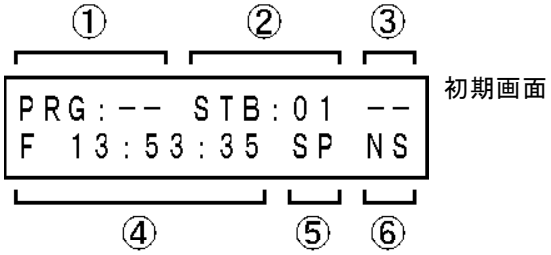
**＊注意**
**本機でイニシャライズ（初期化）したコンパクトフラッシュディスクは、**
**ＰＣやデジカメではそのまま使用出来ません。**
**汎用ユーティリティ等で物理フォーマットする必要が有ります。**
**一部のコンパクトフラッシュでメモリーモードをサポートしていない製品があります。**
**必ず弊社販売のコンパクトフラッシュをお使いください。**

# 2. 電源投入

## 2-1. 電源投入

電源を投入すると、まずバージョンナンバーが表示され、その後、初期画面が表示され起動します。
自動実行などが設定されているとプログラムがスタートします。

## 2-2. 液晶表示



初期画面

① プログラムナンバー
現在実行中のプログラム番号を表示します。
停止中は「－－」が表示されます。

② スタンバイプログラムナンバー（ ← → で切り換え）
**REC** 又は **PLAY** で取り込み／実行される次のプログラムを表示します。

③ リピート （**MENU → Set Repeat Num.**で設定）
スタンバイプログラムを再生した時の繰り返し回数です。（０１～９９）
ＬＰと表示されている場合はＬＯＯＰ（無限繰り返し）です。

④ Ｆ ：全体の書き込み残時間（停止時）
Ｆ ：全体の書き込み残時間（書き込み時）
Ｐ ：再生中の経過時間（再生時）
Ｐ ：再生中のプログラムエンドまでの残時間（再生時）
Ｒ ：書き込み中の経過時間（書き込み時）
Ｅ ：再生中のプログラムの長さ（再生時）
Ｅ ：スタンバイプログラムの長さ（停止時）
各表示の切り換えは **ENTER** で行います。

⑤ 書き込みモード （**MENU → Set Rec Mode** で切り換え）**共通設定**
ＳＰ：毎秒４０回更新 ＬＰ：毎秒２０回更新
（注：取り込み後に変更しますと、正しく再生されません）

⑥ ＤＭＸ受信状態
ＮＳ：ＤＭＸ入力無し ＲＸ：ＤＭＸ信号受信中

# 3. セットアップメニュー

初期画面から　MENU　を押すと**"SETUP MENU"** 画面が表示されます。
ＭＥＮＵの項目（液晶下段）は　←　→　ボタンで切り換えます。
表示されている項目の設定を行うには　ENTER　を、メニューに戻る場合　MENU　を押します。

**各メニューで編集された設定は、"SETUP MENU"画面から抜け、初期画面に戻ることで、コンパクトフラッシュに記憶されます。**
**初期画面に戻る前に、本製品の電源を切られると、編集された設定は記憶されませんので、ご注意下さい。**

## 3-1. SET Repeat Num.

現在スタンバイになっているプログラムの繰り返し回数を設定します。

```
## SETUP MENU ##
>Set Repeat Num.
```

ENTER　↓

```
## SETUP MENU ##
 PRG=01 N:01 < >
```

←　→　で、プログラムナンバーを設定します。
何も保存されていないナンバーを選ぶと「ＮＯ　ＤＡＴＡ！」と表示されます。

ENTER　↓

```
## SETUP MENU ##
 PRG:01 N=01 < >
```

（画面６）

←　→　で、回数を設定します。
回数は１～９９回、もしくは無限繰り返し（ＬＰ）が設定できます。
回数を設定後、ENTER　を押すと最初の画面に戻りますので連続して設定する事が出来ます。
MENU　を押すと元に戻ります。

## 3-2. Set Rec. Mode

書き込みモードを設定します。
全てのプログラムに対する共通設定です。個別の設定は出来ません。
取り込み後に変更すると正しく再生出来なくなりますので御注意ください。

```
## SETUP MENU ##
>Set Rec. Mode
```

ENTER　↓

```
## SETUP MENU ##
 RecMode = SP< >
```

←　→　で、ＳＰ，ＬＰを設定します。
ＳＰは、毎秒４０回更新のＤＭＸ出力になります。
ＬＰは、毎秒２０回更新ですが、保存可能時間がＳＰの約２倍になります。

## 3-3. Set XF-Time

プログラムを再生する際に、フェードインする時間を設定します。
前のプログラムからの切替や本機のＤＭＸ入力に信号が有る場合、ここで設定したタイムでフェードチェンジしスタートします。

プログラム再生中に別のプログラムを再生させた場合、前のプログラムが止まってその時点のＤＭＸレベルと次のプログラムの最初のレベルがフェードチェンジします。

```
## SETUP MENU ##
>Set XF-Time
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
 XF-Time = 0 < >
```

← → で、０～３０を設定します。単位は「秒」です。

## 3-4. Set Stack

外部接点や **RS232C**、**DMX** で呼び出した時に記憶されているプログラムを順に再生する事が出来ます
例えばプログラム１に演出、プログラム２に待機状態を記録して接点を受けるとプログラム１を実行した後、プログラム２をループ再生することが可能です

**編集**

```
## SETUP MENU ##
 >Set Stack
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
  Stack■ step01:--
```

← → で設定するスタック番号（１～４）を選択
ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
  Stack 1 step0■:--
```

← → で設定するステップ番号を選択
ENTER ↓

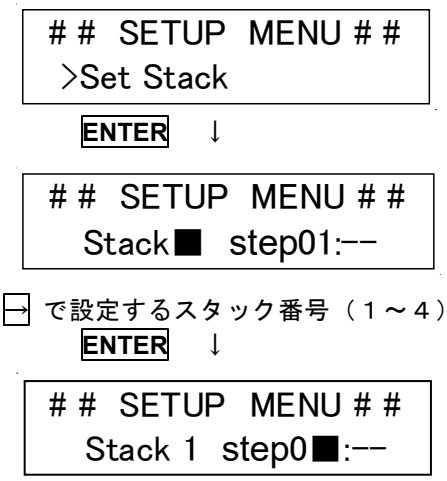
```
## SETUP MENU ##
  Stack 1 step01:0■
```

← → で設定するプログラム番号を選択
ENTER を押すと自動的に次のステップにカーソルが移動します。
良ければ ENTER を押して次のステップのプログラム番号を入力してください。

各ステップのプログラム繰り返し回数は前ページ **3-1 SET Repeat Num.** で設定した回数が反映されます。
この画面の時に **PLAY** ボタンを押すとスタックの実行確認が出来ます

### 削除（再編集）

一度編集を行った **Stack** の **Step** の削除(再編集)を行いたい場合には、
下記に示す手順で行って下さい。




← → で **Step** の末尾のステップ番号を選択し、プログラム番号を← → で"－－"に設定して下さい。
この操作を行い末尾から削除もしくは再編集されたい **Step** まで戻り、再度編集を行って下さい。

※"－－"は **Step** の末尾のプログラムでしか選択出来ません。

## 3-5. Event Program

電源投入時やＤＭＸ信号入力が無くなった時または接点入力がオンになった時にプログラムを再生させる事が出来ます。ここでは、その要因に対してどのプログラムを再生させるかの設定を行います。




各サブメニューの設定したい項目で ENTER を押すとプログラムの番号（**1** ～ **64**、**S1** ～ **S4**)と **REC**(書き込み)・**STP**(停止)が設定出来る様になります、
← → で番号を選んで下さい。スタックを割り付ける場合は **S1** ～ **S4** を選択してください。
何も実行しない場合は「－－」にしておいて下さい。」
番号を選んで ENTER を押して下さい。

※ **Power on**（画面表示は、”**PWON**”）の設定に、**LPR**（**Last Program**）が追加されました。
**LPR** は、本機にて最後に再生されたプログラムを、電源投入時に再度実行することが出来ます。
（**Master mode** で使用する際には、**master mode** 設定後に、プログラムを再生してください。
設定後に行わないと、設定前のプログラムを **Power on** の際に個別に再生を行い、
同期が正常に動作しない場合がございます。）

## 3-6. CF Initialize

メモリーカードを初期化します。これを行うとメモリーカードの内容が全て失われてしまいますので、充分に御確認の上、行ってください。

```
## SETUP MENU ##
>CF Initialize
```

**ENTER** ↓

```
## SETUP MENU ##
Initialize?
```

**ENTER** ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

**ENTER** を押すとイニシャライズがスタートします
しばらくしてイニシャライズが終了すると

```
## SETUP MENU ##
    COMPLETE!
```

**COMPLETE** ！が出て初期画面になります。

## 3-7. Make Free Space

プログラムを書き換えた後にデータを移動し、空き容量を増やします。

例えば、初期状態から３個のプログラムを作成した場合、メモリーカ ードの中身は下記の様になっています。

0　　メモリーカード　　１００％

| PRG：1 | PRG：2 | PRG：3 | 残容量 |
|---|---|---|---|

ここでＰＲＧ：２を上書きした場合、実際には残容量の部分にデータが作成され、元のＰＲＧ：２は見えないように処理されます。

| PRG：1 | 元PRG：2 | PRG：3 | PRG：2 | 残容量 |
|---|---|---|---|---|

ここでＭａｋｅ　Ｆｒｅｅ　Ｓｐａｃｅを実行すると、元のＰＲＧ：２ は消去され、データの格納場所をずらして空き容量を確保します。

| PRG：1 | PRG：3 | PRG：2 | 残容量 |
|---|---|---|---|

この作業はデータの格納場所を移動しますので、メモリーカードの容量が大きい場合は数分掛かる事も有ります。

１つのプログラムには連続した領域が必要になる為
こうした内部構造になっています。

```
## SETUP MENU ##
>Make Free Space
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Free Space?
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
   COMPLETE!
```

**COMPLETE** ！が出たら移動は終了です。
カードの転送速度や容量、データ量により時間が掛かる場合があります。

## 3-8. Master Mode

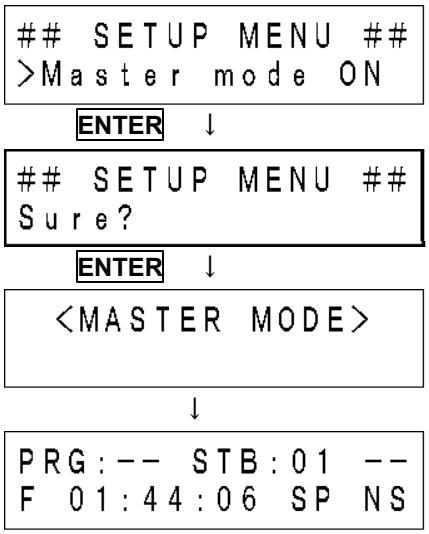
### ON

複数のレコーダーを同期運転することができます。これによりチャンネル数が不足した場合最大３２台までをリンクしてマスターに設定した１台で他の全ての機器を連動して動かすことが出来ます。
どれか１台をマスターに設定すると繋がっている他の機器は自動的にスレーブに切り替わります。

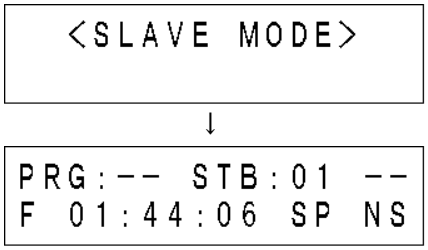
準備

リンクして同期運転する場合は本機裏面の **LINK** コネクターを接続する必要があります（**LINK** コネクターを使用する場合は **3-10 LINK** で **LINK** コネクターを **ENABLE** に設定してください）
**LINK** コネクターの **OUT** を次の機器の **LINK IN** に接続してください。２台以上の場合は **OUT** から **IN** へ順に接続していってください。マスターになる１台は **LINK** 接続している途中にあっても構いません。
**LINK** ケーブルはシールド付きのツイストペア線を使って下さい（**DMX** 用のケーブルで流用可能）
１番ピンがシールドで２番、３番がシグナルになります。１対１で接続して下さい。

マスターの設定（現在 **Master** モードが **OFF** の場合は下記の画面が出て設定できます）
マスターにしたい１台に設定して下さい。




マスター機が実行画面に戻ったら、リンクしてある他の全てのレコーダーが同時に操作出来ます。
**LINK** 接続してあるどれか１台がマスターに設定されると他のレコーダーは自動的に **Slave** に切り替わります。１台がマスターの時、リンクされてるレコーダーは下図の表示になります。



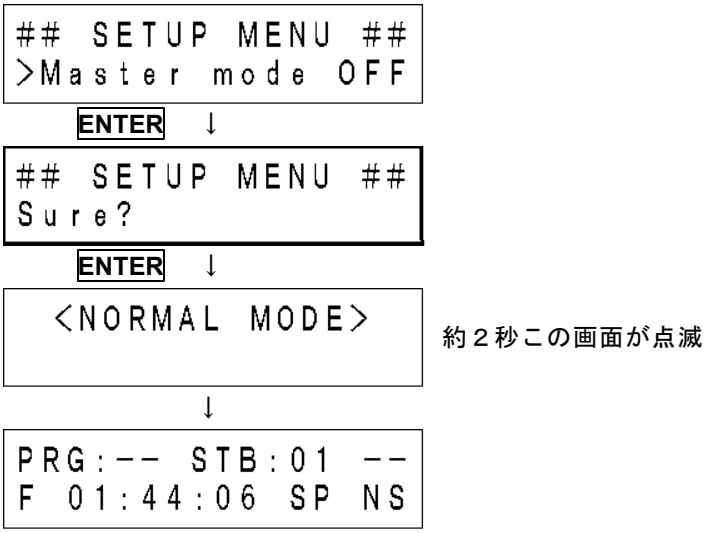

実行画面に戻ったら以後の操作はマスター機でのみ可能です。

なお **MASTER MODE, SLAVE MODE** の表示は電源投入時にも表示されます。

**OFF**

リンクモードを解除します。

現在 **Master** モードが **ON** になっている場合は下記の画面が表示され解除出来ます。



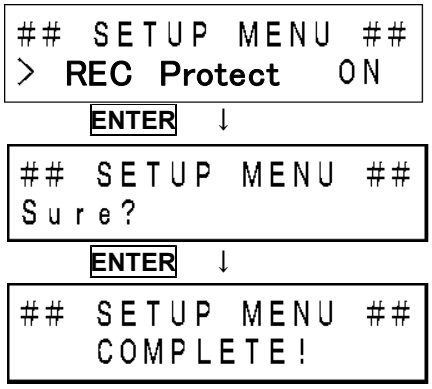

初期画面が表示されたらリンクが解除され、個々での操作が可能となります。

## 3-9. REC Protect

書き込みが終了して誤って書き込んだり消去したりしないように書き込み禁止の設定が出来ます。

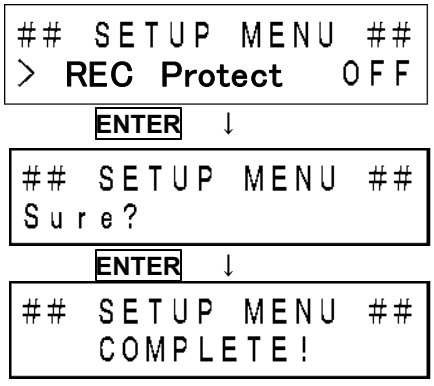
**ON**

現在の設定が **OFF**（書き込み可能）の場合下記の画面が出て設定できます




**OFF**

現在の設定が **ON**（書き込み禁止）の場合下記の画面が出て解除できます



## 3-10. LINK

複数台の **CF Recorder** を使って同期運転する際に **Link** コネクターを使うかどうか設定します。

### Enable

現在 **Link** コネクターが使用不可な場合は下記の画面が表示されます。

```
## SETUP MENU ##
> Link Enable
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
   COMPLETE!
```

**Link** コネクターを使用の際は、必ず **Link Enable** に設定して下さい。
また複数台を **LINK** で繋いだ場合、最後の機器の **LINK** コネクタの終端スイッチを **ON** にして使用してください

### Disable

現在の状態が **Link Enable** の場合下記の画面が出て設定できます。

```
## SETUP MENU ##
> Link Disable
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
   COMPLETE!
```

**＊ Link コネクターを使用しない場合は、必ず Link Disable に設定して下さい。**

## 3-11. DMX Remote

プログラム、**Stack** の呼出、**REC** の **Start**、**Stop** を **DMX** 信号から行うことができます。

**ON**

現在の設定が **OFF**（呼び出し不可）の場合下記の画面が出て設定できます。

```
## SETUP MENU ##
> DMX Remote ON
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
  Top Ch.= 401 < >
```

← → でリモートする **DMX** の先頭 **ch** を設定して下さい。

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
  Mode = A       < >
```

← → でモードを **A** か **B** を選択してください。

ENTER

設定された **Top ch** より連続して、**DMX** に各機能が自動的に割り当てられます。
**A・B** モードにより **DMX** に割り当てられる動作が異なります。
各モードの割り当てられる項目は以下のようになります。

**Mode A**

| DMX ch | 動　作 |
|---|---|
| 1 ～ 64 | Play　プログラム 1 ～ 64 |
| 65 ～ 68 | Play　スタック　1 ～ 4 |
| 69 | REC　スタート |
| 70 | Stop |

**Mode B**

| DMX ch | 動　作 |
|---|---|
| 1 | REC　スタート |
| 2 | Stop |
| 3 ～ 6 | Play　スタック 1 ～ 4 |
| 7 ～ 70 | Play プログラム 1 ～ 64 |

**OFF**

現在の設定が **ON**（呼び出し可）の場合下記の画面が出て解除できます

```
## SETUP MENU ##
> DMX Remote OFF
```

ENTER ↓

```
## SETUP MENU ##
Sure?
```

ENTER ↓

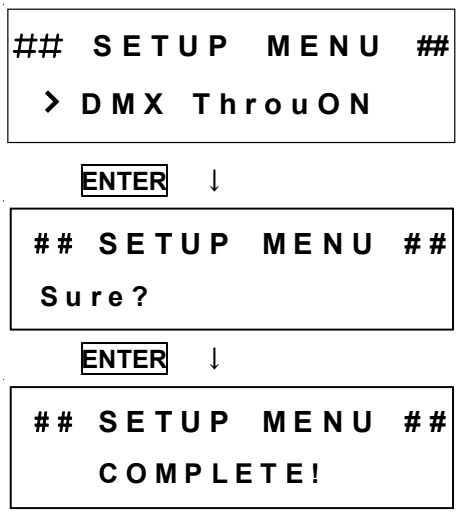
```
## SETUP MENU ##
   COMPLETE!
```

## 3-12. DMX Through

**DMX** の入力信号を **OUT** 側に **THRU　OUT** するかを設定することができます。

**ON**

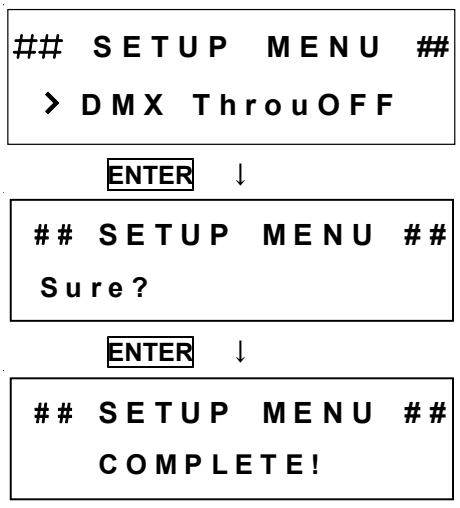
現在の設定が **OFF**（**THRU　OUT** 不可）の場合下記の画面が出て設定できます。




**ON** に設定されている時には、プログラム終了後 **DMX** 信号が入力されていれば、信号を **THRU OUT** します。

**OFF**

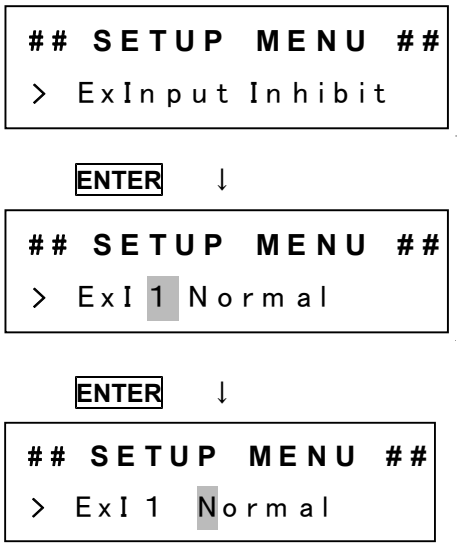
現在の設定が **ON**（**THRU　OUT** 可）の場合下記の画面が出て解除できます




**OFF** に設定されているときには、プログラム終了後 **DMX** 信号が入力されていても、プログラムの最後の信号を保持します。

## 3-13. Exinput Inhibit

外部接点入力からの呼び出しを常に受け付けるか、再生中は受付禁止にするかの設定が各入力毎に行えます。




入力の選択画面になります。番号にカーソルが移動するので設定したい入力番号を矢印 ← →で呼び出して **ENTER** で確定します。

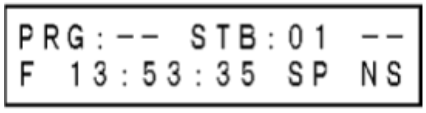
矢印 ← →で **Normal** か **Inhibited** を選択して **ENTER** で確定します。

**Normal** ： 外部接点入力は常に受け付けます。再生中に同じ接点が来るとまた最初に戻って実行します。

**Inhibited** ： 設定した外部接点入力は再生中は受け付けません。他のプログラム再生中も接点は受け付けません。

# 4. データ記憶

取り込み前に、**3-2** 章を参照していただき、書き込みモードを設定／確認して下さい。




**1. DMX** 入力コネクターに、取り込む **DMX** 機器の出力を接続します。
正常に **DMX** が入力されれば液晶表示の「**NS**」が「**RX**」に変わります。
**2. STB:**に記録したいプログラムナンバーを設定します。
**3.** REC ボタンを押します。
**" Sure ? "**と表示されますので、 ENTER を押すと記録が開始されます。
それ以外のボタンを押すとキャンセルされます。
（**DMX** リモートの場合は信号が来た段階で記録が開始されます）
**DMX** 入力信号が無い場合、「**NO DMX SIGNAL!**」と表示されます。
取り込みが始まると画面に
**R**：書き込み中の経過時間もしくは
**F**：全体の書き込み残時間が表示されます。
ENTER を押すごとに表示が切り替わります。

**4.** 取り込み終了は □ ボタンを押します。
**" Write? "**と表示されます、ENTER を押すと保存されます。
それ以外のボタンを押すとキャンセルされ、取り込んだデータは破棄されます。

データが保存されると、リピート表示が、初期設定の「**01**」に変わります。

続けて別のプログラムを記録する場合は **2.**から繰り返します。
書き込んだデータは消去出来ません。別のデータを上書きして下さい。

# 5. 実行

## 5-1. マニュアル実行

**1.**初期画面で、**STB:** に再生するプログラムナンバーを設定します。
**2.**リピートの設定を確認／変更します。（**3-1** 章参照）
**3.**スタートは ▶ ボタンを押します。
再生中は、**PRG:** に再生中のプログラムナンバーが表示されます。
**P:**再生中の経過時間　もしくは　**E:**再生中のプログラムの長さが表示されます。
ENTER を押すごとに表示が切り替わります。
表示が**" P "**の場合、時間の右側には繰り返しの経過が表示されます。
例えば**"1/3"**と表示されていれば３回繰り返しの１回目という意味です。

**4.**設定された繰り返し回数が終了すると自動的に停止します。
**PRG:**が**" - - "** 表示になり、下段の時間が
**F:**全体の書き込み残時間 もしくは　**E:**スタンバイプログラムの長さ
になります。

**LOOP**（**LP**）設定時や再生途中での停止は■ボタンを押します。

停止時、外部 **DMX** が繋がっていない場合は止まった時点のＤＭＸレベルが残ります。
外部 **DMX** 入力に信号が有る場合は、そちらに切り替わります。

## 5-2. 自動実行

### 5-2-1　電源投入時の自動実行

電源投入時にプログラムを再生させるには、セットアップメニューの、**EventProgram** で設定します。（**3-4** 章参照）
「**PWON**」に、再生させるプログラムナンバーを設定します。

### 5-2-2　DMX入力が切れた時にプログラムを再生させる（バックアップ）

これは本機の **DMX** 入力に通常使用する **DMX** 信号送出機器を接続しておき、この機器からの **DMX** 信号が無くなった時に本機のプログラムを再生するバックアップモードです。
設定はセットアップメニューの **EventProgram** で行います。（３－４章参照）
「**BKUP**」に、再生させるプログラムナンバーを設定します。
ただし、信号が無くなった時に本機のプログラムが再生中の場合は反応しません。

# 6. 外部からの制御

## 6-1. 外部接点入力での呼び出し

本機は８個の接点入力を備えており、保存された６４プログラムの内、任意の８プログラムを呼び出す事が可能です。
設定はセットアップメニュー（３－４章参照）の **EventProgram** で行います。
「**EXI 1 ～ 8**」に、再生させるプログラムナンバーを設定します。

## 6-2. RS232-Cでの制御

本機は **RS232-C** シリアル信号で制御する事が出来ます。
仕様：　ボーレート：**9600bps**　　ストップビット：**1**　　パリティ：無し
書式：　コマンド文字[プログラムナンバー **1** ～ **64**、**S1** ～ **S4**）]**CR**
**pin** 番号　**2:TX 3:RX 5:GND**

| コマンド | 送出 |
|---|---|
| 再生（クロスチェンジ） | **P** ｎ **CR** |
| 再生（カットチェンジ） | **C** ｎ **CR** |
| ＳＴＯＰ | **S CR** |
| ＲＥＣＯＲＥＤ | **R** ｎ **CR** |
| ブラックアウト | **B CR** |

ｎはプログラムナンバー

## 6-3. DMXでの制御

本機は外部 **DMX** 信号で制御する事が出来ます。
**DMX** のアドレスを設定してプログラムやスタック、**REC** スタート、ストップのリモート呼び出しが行えます。
詳細は **3-11. DMX Remote** を参照

# 7. 付録

## 7-1. 仕様

| | |
|---|---|
| ＤＭＸ出力<br>（ﾉｲﾄﾘｯｸ XLR ﾀｲﾌﾟ５Ｐメス） | ＤＭＸ５１２（ＳＰモード：毎秒４０回更新）<br>（ＬＰモード：毎秒２０回更新） |
| ＤＭＸ入力<br>（ﾉｲﾄﾘｯｸ XLR ﾀｲﾌﾟ５Ｐオス） | ＤＭＸ５１２ |
| 接点入力<br>（D-sub ９Ｐメス）<br>ＲＳ２３２－Ｃ<br>（D-sub ９Ｐオス） | ８回路（**Pin1 ～ 8** が入力 **1 ～ 8** 対応、**Pin9:COM**）<br><br>外部からのリモートコントロール<br>ボーレート　９６００ｂｐｓ<br>パリティ　無し<br>ストップビット　１<br>**pin** 番号　**2:TX 3:RX 5:GND** |
| プログラム数<br>スタック数 | 最大６４<br>４（最大２０ステップ） |
| メモリーカード<br><br>記憶時間　本体内蔵<br><br>付属予備 | コンパクトフラッシュディスク<br><br>２ＧＢメモリーカード<br>約２７時間４８分：ＳＰ（ＬＰモードでは約２倍）<br>２ＧＢメモリーカード |
| 実行方式 | 機器ボタンによる実行<br>電源投入時自動実行<br>バックアップ動作による実行<br>外部信号による実行<br>**DMX** 入力によるリモート実行 |
| 電源<br>定格電力<br>外寸<br><br><br>動作温度、湿度 | ＡＣ９０～２４０Ｖ　５０／６０Ｈｚ<br>１０Ｗ<br>**1U** ラックマウントタイプ **W482 H44 D200**（単位㎜ 突起部除く）<br>置き型タイプ　**W280 H130 D130**（単位㎜ 突起部除く）<br><br>０℃～５０℃、１０％～８５％（結露無し） |

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい

（本書製作日2025年1月21日）